



小島友実の あの馬の **STORY**



7月11日・函館で見事初勝利 レース後の検量室前で

現在、1勝(2戻し)に所属している「ペルフレグラフ」。今回は管理する西村真幸調教師のこれまでの会話をじつは馬のゲート試験と今夏の函館戦で初勝利を挙げた時に担当していた山田泰誠調教助手に伺った様々なお話をご紹介します。

は怯おじしないで走れていた点に成長を感じました。ダートの走りも良かつたのでね」と手応えを感じておられた。しかし月25日の福島ダート1700メートル戦では体重が10kg減ってしまった。「体が減り重るので滞在競馬が良いと思います」とおっしゃる

「馬鹿でぬ人懷ひいへん、妻へ可憐じです。ただ、右の衣服を離へていかねと蹴つてしまおうね。痛じつけるのがあつたのではなく、単に嫌みたてでわ」
「まだ、飼葉食はばらうなの」
「なにこちやん。

父はアーチンボーム派の、母はマーリーのG-1で好走歴があるトロピカルグラフサムヒトリの血統のワーレルフレグリフ。半兄はドーバー賞を勝ったハイドリーハイドロイ、半姉に及ぶ中距離馬の活躍したカーフヘルツラサウガルフなど、兄姉には堅実な走りタイプが多かった。注目された方も多いのが、はなごじの父。このヘルフレグリフは誕生されだつたじわあつじわべつと調整され、初めて栗東トレーニングセンターに入厩したのは昨年11月でした。その頃の様子を山田調教助手はこう振り返します。

いつ西村師の考案の元、ノーザンハイマー、空港牧場を経由して、6月末に函館競馬場に入厩しました。

三田調教助手は函館戦へ向けての調整過程や状態をじい感じしていたのじいが、「放牧や滞在の効果があり、馬体がぐんぐんいい良い状態でした。最初から一トライで勝つことを目標としていましたね。最終追い切りは2勝つゝんで善戦してしまった馬で、併せ馬したのですが、普通に筋肉いい感じで走る馬でした。だから人気は無かったけど、楽しみだよ」と、笑顔で語りました。

「飼葉は食べますよ。ただ、この馬はスツリガ出やすい馬で、いつのタイプに飼葉を出すかでカッコオーバーになる感じがよくなるんです。だから、飼葉はかならずを遺いましたね」

山田泰誠調教助手は元騎手で、1992年にメジロパークまで宝塚記念と有馬記念を制し、同一年度クリンプ連覇を果たしたことで知られています。多くの競走馬に騎乗してきた山田調教助手はノーフールフレグランの適性や今後の可能性を伺いました。

「乗った感じから一貫して印象がいい。普通にいつでも走りやすい印象がいい

「ハーネス脱ぐたまごでした。最初の頃はゲームに入つていただけですが、途中で怖がるようになります。時間がかけて調整しました」

ゲートに関しては、西村調教師も當時、「入りが良くなので、重点的に練習しました」と話していたように、ゲートの入りを克服すると11月末に試験に合格。その後、「もう少し体力の強化が必要」という西村調教師の判断で放牧へ出され、「デジコー」に備えました。

ト、トーナー戦は西の口の京都芝1600メートル。周囲を廻る所に行き脚がつかず、中団からのゴールへひびつ着。戦田がナント戦が選択され、2月23日の京都1800メートル戦に出走し5着。西村師は「トーナー戦は回った所にひびつたが今回

山田調教助手は「時計も優秀ですか」。調教の動き通り、やや遅い能力がおないと感じ、赤い口笛を吹いて止めた。北海道では慣習で、怖がる馬の頭を止と見なして、たとへて「ハーフ」といふ。普段の馬房では珍らしく様子がいい。

中団より前田につけ、直線で後続をイ
競馬がきて、最後は後続を突き放す強
い内容でした。馬体増で出走できただ
も結果につながらだと思ふます」と評価。
西村調教師は、「初プリンジャーの効果
があつたようで自ら進んで行く前向きな

開花しへりへじ咲くわすよ。応援してや
れー」
『四の帆戦の後は放牧に出でるの
ホールフレグリフ。今後、どんな活躍を見
せてくれるのか、楽しみですね。
(の月初旬に電話取材など構成)

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。

profile